

平成 22 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 若手研究 (B) 4. 研究期間 平成 20 年度 ~ 平成 22 年度
5. 課題番号 2 0 7 3 0 3 5 6
6. 研究課題名 サブカルチャー集団による地域社会への参加に関する民族誌的研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 3 2 9 1 7 3	オオヤマ 昌彦	メディア学部	准教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究の目的は、サブカルチャー集団の地域社会への参加の様態を、茨城県中央部で活動するロックンロールと呼ばれるサブカルチャー的活動を行う集団を対象に、活動場所の獲得そしてその維持に関して地域社会との交渉を通じた社会参加へのプロセス、および活動を通じた下位文化的なネットワークの形成、そしてそれ以外の社会生活との関連を明らかにすることである。本研究では、主にフィールドワークを中心とした現地調査、および新聞・雑誌のテキスト分析を併用し、データの収集と分析を行うものである。

平成22年度は、茨城県中央部のロックンロール・チームへのフィールドワークおよび、チームがパフォーマンスを行う祭りの主催者および地元の商店会関係者への聞き取り調査を行った。対象となる成人系のチームでは、従来と異なるサブカルチャーの伝達とメンバー参加の様態が明らかとなった。従来ロックンロールは、暴走族を中心とした地元の不良グループへの周辺から加入を契機とした同世代の集団内で伝達されてきたが、成人系のチームにおいては、若年層の参加は、親子、またはそこから派生し子供の友人関係がその契機となっているため、家族関係がサブカルチャーの伝達において重要である点が浮かび上がった。また成人系のチームが増加し多様なスタイルのパフォーマンスが展開する現在では、メンバーの移動が活発になっている。過去、暴走族の義務であったロックンロールは、参加者のメンバーシップが限定、固定化されていた。現在ロックンロールは趣味と位置づけられるようになったために、自分の好みのスタイルとチームを各自が選択するようになり、チームとメンバーの関係はより流動化しつつあることが明らかになった。

また祭りの主催者である水戸市観光協会および商店会の聞き取りでは、ロックンロールに対する態度が柔軟化しつつも、内部では分裂していることが明らかになった。ロックンローラーと主催者は、パフォーマンスの際の取り決めにおける衝突の減少、共同で祭りのパトロールの実施など、協調関係を築きつつある。一方では地元の他者である暴走族時代のトラブルの記憶が強く残り、強固にロックンロールを拒否する商店会関係者も数多く存在するため、主催者側の内部調整が困難であることが明らかになった。

10. キーワード

- (1) サブカルチャー集団 (2) 社会参加 (3) 地域社会
- (4) 公共空間 (5) 文化関係資本 (6) 商店会
- (7) (8) (裏面に続く)

11. 研究発表（平成22年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計(0)件 うち査読付論文 計(0)件

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

〔学会発表〕 計(1)件 うち招待講演 計(0)件

発表者名	発表標題		
大山 昌彦	グローバル化と都市変容 ―都市空間における公共性の問題		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本社会学会（第83回）	2010年11月6日	名古屋大学（愛知県）	

〔図書〕 計(1)件

著者名	出版社		
大山 昌彦	日本図書センター		
書名	発行年	総ページ数	
『若者の現代3 文化』「脱若者化・地域化するサブカルチャー」	2011	印刷中	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

--